

13.6×12.2	1	1.11	北港	(TAI)	1935.7.28	佐々木舜一
13.1×9.1	2	1.44	恒春ヒーラン山	(FU)	1919.3	山田 金治

(T I : 東京大学理学部。 K Y O : 京都大学理学部。 F U : 九州大学農学部。 N T U : 台湾大学農学院。
T N S : 国立科学博物館。)

○伊豆大島のスダジイ (山崎 敬・倉本 宣) Takasi YAMAZAKI & Nori KURAMOTO: *Castanopsis cuspidata* in Is. Izuōshima

別項のスダジイの資料には伊豆七島は入っていないので、倉本が大島で1986年11月、1987年3月に測定した結果を示す。大島の3箇所では28個体の堅果を測定した。1個体は3個、5個体は5個、2個体は6個、20個体は10個を計測し、その平均を示した。長さ(㎝)の平均値は次の様である。

22.0×8.0, 19.6×9.0, 18.8×9.6, 18.2×9.6, 17.7×8.2, 16.8×9.7, 20.3×8.2, 19.4×9.0, 18.5×8.9, 18.1×10.1, 17.5×9.7, 16.5×9.0, 20.2×10.0, 19.0×10.0, 18.5×8.5, 18.0×9.7, 17.5×9.0, 16.0×8.0, 20.0×11.0, 19.0×8.7, 18.5×8.5, 18.0×8.8, 17.0×10.0, 19.7×9.6, 18.9×9.9, 18.5×8.4, 18.0×8.0, 17.0×8.1

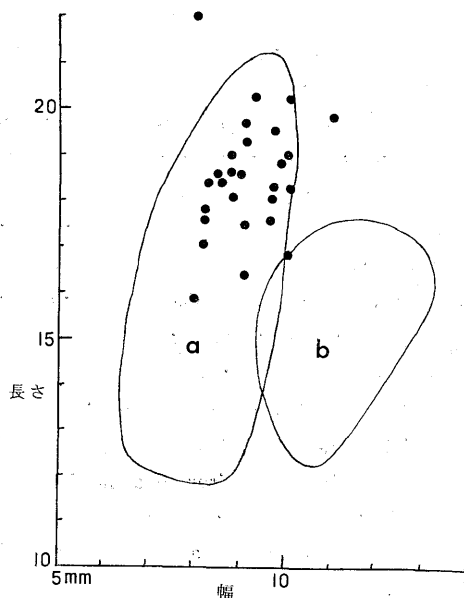


図 1. 伊豆大島のスダジイの堅果の長さ(黒点)。a はスダジイ, b はオキナワジイの全体の変異の範囲を示す。

これを図に示すとほぼスダジイの範囲に入る。しかし全体的には上右にずれる。言い換えれば、スダジイの中では長めでやや幅が広い方にずれる傾向がある。日本国内でのスダジイの計測数が少ないし、各地域特にコジイの形質の混じらない神奈川県や東京での測定と比較しなければ結論することはできないが、伊豆大島のものは微妙ではあるが特定の性質をもつのでないかと思われる。

(東京大学理学部附属植物園・東京都自然保護部)